

田中ヒサミ個展『自身ガアリマセン』

2012年3月24日（土） - 4月29日（日）

オープニングレセプション：3月24日（土）18 - 21時

※会期中は、月曜日 17-23時および金・土・日曜日 13-19時のオープンとなります。

※初日の3月24日は、レセプション前も通常通り13時からオープンいたします。



シルバーボックス, 2012年
アクリル、エナメル塗料、インク、鉛筆、パネル
53 x 44.5 cm



曲がるブラック, 2012年
アクリル、エナメル塗料、インク、鉛筆、パネル
112 x 145.5 cm

早春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

waitingroomでは、来る3月24日（土）から4月29日（日）まで、田中ヒサミ個展『自身ガアリマセン』を開催いたします。

田中は1976年茨城県生まれ、2001年多摩美術大学美術学部デザイン科卒業。近年の参加展覧会は、『窓と物語』（2011年, waitingroom, 東京）、『トーキョーワンダーウォール 入選作品展』（2010年, 東京都現代美術館, 東京）など。田中にとって本展がwaitingroomでの初個展となります。

田中はこれまで、世の中の様々な「差異」における「価値の有無や力の有無」に着目し、身の回りの風景、人物、モノから「価値や力があるものとされている」特定のモチーフを選び、画面上で形態の抽象化と再構築を行い、その他と同化させることで、様々な「関係性」や「価値」をフラットに表現していました。

しかし震災を境に、「これまでのモチーフの選定の仕方に疑問を感じ始め、その理由に確信が持てなくなった」と語る田中は、今度は「価値や力が無いとされがちなモノ」をただ画面上に提示するという方法に移行します。

いわゆる何でもないモノを描く。

それは只の線であったり、只の色であったり、もしくは只の絵の具であったり。線を引くために只線を引き、色を塗るために只色を塗る。

それはたぶん人が生きるために生きるというのに近い。

そしてそれらは「只」であるため、できるだけ外的要因に左右されたり、できるだけ能動的でないモノであってほしい。

それは描く際の技法にも通ずる。そこに現れたモノはそれ以上でも以下でもない。

しかし人が何かアクションを起こす以上（しかも絵を描くという行為がある以上）、そこに何かしらの情念が宿るのが常。

実はある意味、そこが上記した内容と二律背反的に展開するテーマでもあり、絵画の理屈でない面や、人がなぜ絵画を求めるとかという部分についての問題提起みたいなものでもある。（田中ヒサミ）

作家として「何故絵を描くのか」という問いは、人が「何故生きるのか」という問いに通ずる永遠のテーマでもあります。

田中というひとりの画家が、改めて「世界を見つめること」「絵を描くこと」に向き合った本展を是非、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

waitingroom（芦川朋子／山内 真）

田中ヒサミ個展 『自身ガアリマセン』

作家略歴

1976年 茨城県生まれ。
2001年 多摩美術大学美術学部 デザイン科 卒業
神奈川県在住

主な展覧会

- 2012 『自身ガアリマセン』 (waitingroom、東京)
『New City Art Fair』 (hpgrp Gallery New York、NY)
- 2011 『ULTRA004』 (SPIRAL、東京)
『第1回全感覚派美術展』 (清川泰治記念ギャラリー、東京)
『in the waitingroom』 (waitingroom、東京)
『窓と物語』 (waitingroom、東京)
- 2010 『ULTRA003』 (SPIRAL、東京)
『トーキョーワンダーウォール入選作品展』 (東京都現代美術館、東京)
- 2009 『AMUSE ART JAM 2009』 (京都文化博物館、京都)
『FLATLINERS』 (Dining Bar ito、東京)



ブラウンゲート、2012年
アクリル、エナメル塗料、インク、鉛筆、コラージュ、パネル
31.8 x 41 cm

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

waitingroom (代表：芦川朋子、山内 真)

住所：東京都渋谷区恵比寿西2-8-11 渋谷百貨ビル3F 4B

営業時間：月 (17-23時)、金土日 (13-19時)

Tel&Fax : 03-3476-1010 Eメール : info@waitingroom.jp